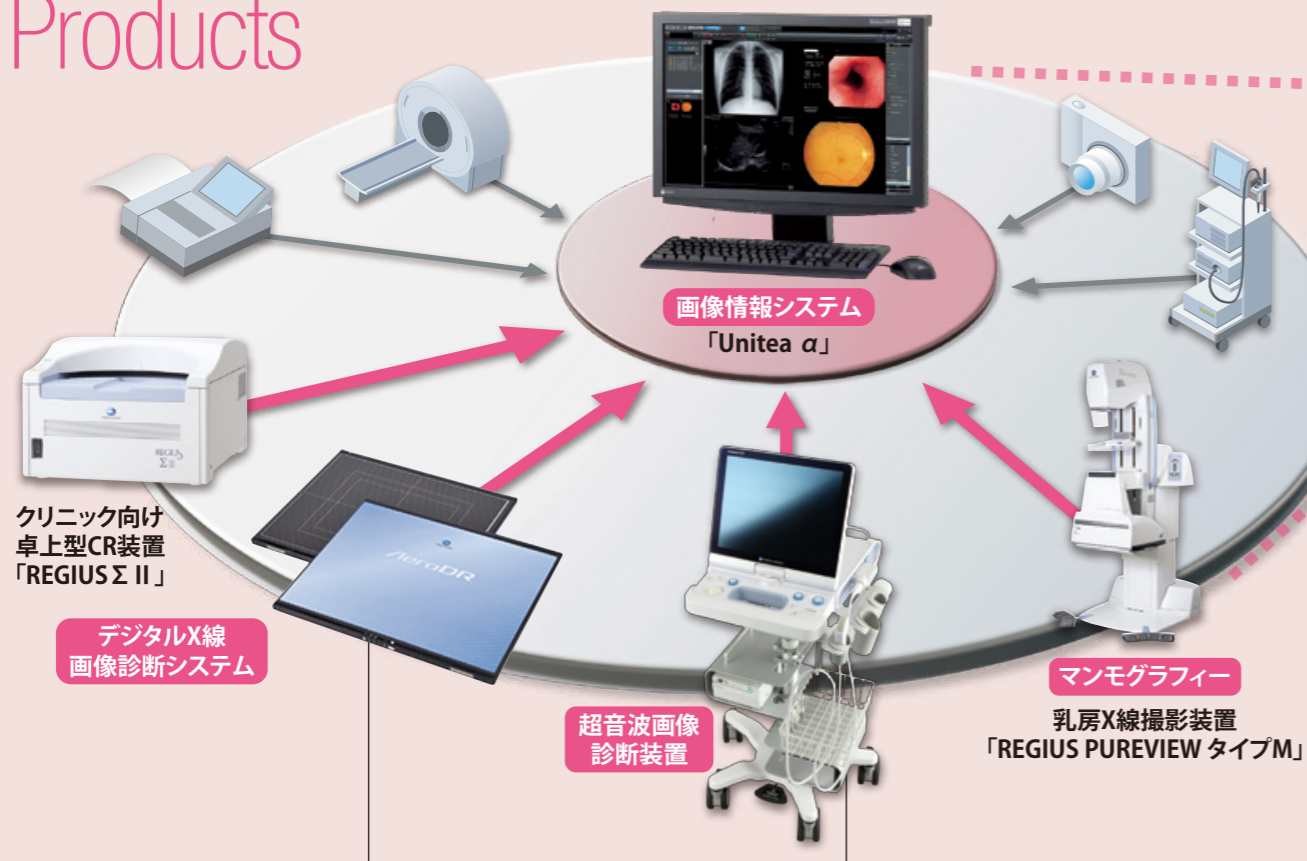


医療のデジタル化・ネットワーク化を支援 診断サービスの向上へ

日本におけるレントゲンフィルムのパイオニアとして、医療診断用画像技術をコアに、医療現場のニーズに応えてきたコニカミノルタ。
近年では、医療のデジタル化・ネットワーク化に寄与する機器やシステム、ICTサービスをトータルに提供することで、より迅速、確実な診断サービスの実現に貢献しています。

Products



Digital Radiography

軽くて丈夫! 高画質・低被曝な カセット型X線撮影装置「AeroDR」

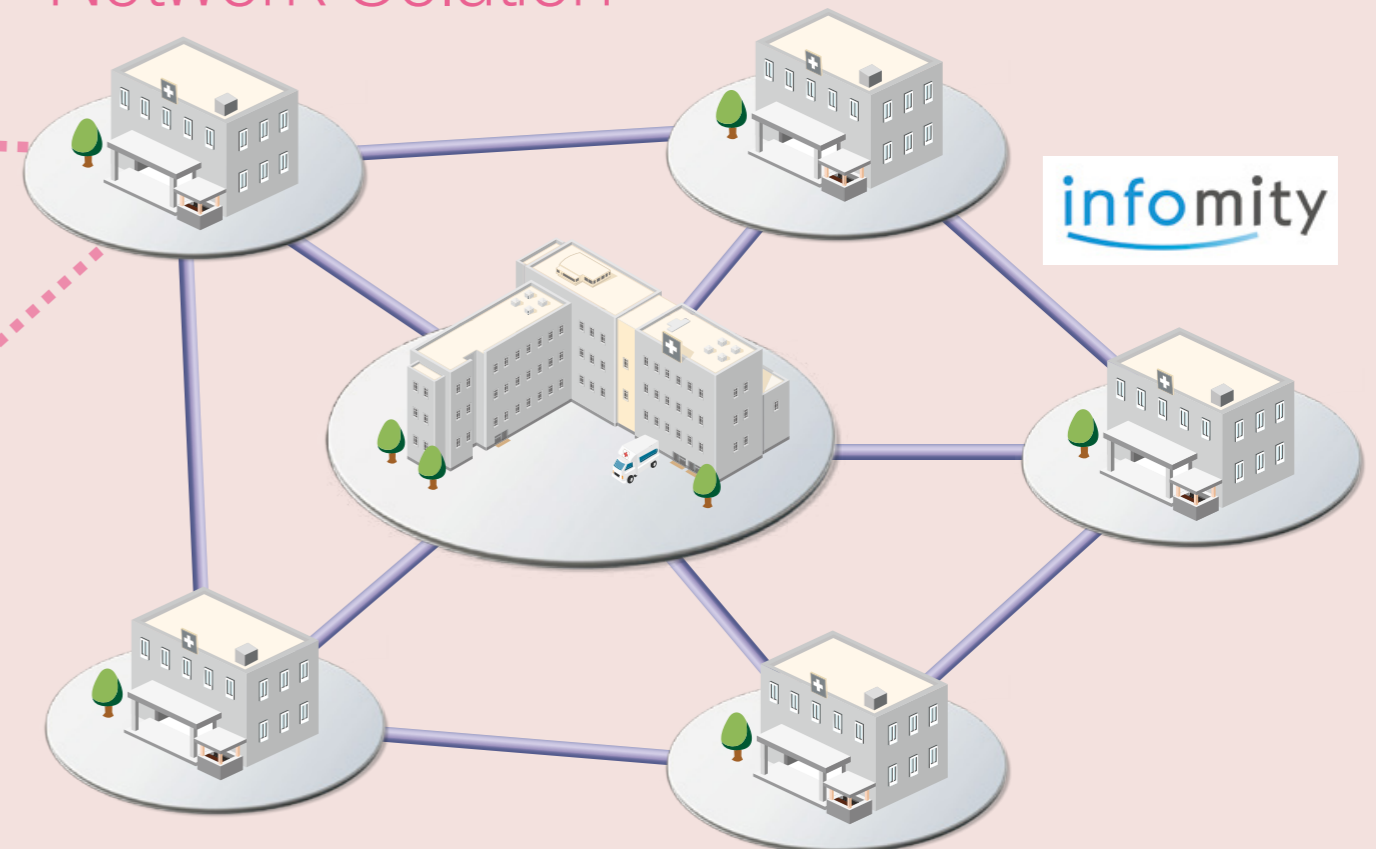
近年、医療現場のデジタル化が医療に携わる方々や患者さんの負担を大きく軽減しています。DR (デジタルラジオグラフィ) は、フィルム撮影に比べて患者さんのX線被曝量を低減するとともに、より高精度な画像を撮影後すぐに表示できるメリットがあります。しかし、従来のDRは重い上に電源用やデータ送信用のケーブルが必要なため、撮影時の作業性が課題となっていました。コニカミノルタが開発した「AeroDR (エアロディーアール)」は、徹底した軽量化とワイヤレス化により、この課題を改善。DRのさらなる普及拡大に貢献しています。

Diagnostic Ultrasound Systems

繊維構造まで鮮明に見える 超音波画像診断装置「SONIMAGE HS1」

超音波画像診断装置は、患者さんの体への負担が少なく、リアルタイムに画像を観察できるため、幅広い診断領域への応用が期待されています。コニカミノルタは、安全に穿刺治療をするための穿刺針強調処理を搭載し、太さ数十～数百ミクロン程度の筋束や神経束の繊維構造まで鮮明に見ることができる、高画質な超音波画像診断装置「SONIMAGE HS1 (ソニマージュエイチエスワン)」を独自技術により開発しました。分解能の高い鮮明な画質は、内科、産婦人科に加え、今後は整形外科や乳腺科などでの新たな利用拡大に貢献できるものと考えています。

Network Solution



Network Solution

医療のネットワーク化を支援する ICTサービスプラットフォーム「infomity (インフォミティ)」

医療現場におけるデジタル化の進展とともに、ネットワーク技術を利用した医療ICTサービスへの期待が高まっています。コニカミノルタは、こうしたニーズを先取りし、医療機関のネットワーク化を支援する医療ICTサービスプラットフォーム「infomity (インフォミティ)」を提供。医療業務のさらなる効率化、高度化に貢献しています。

「infomity」は、複数の病院や診療所間で画像データや情報を保管・共有できる「連携BOXサービス」、院内からアップロードした連携BOX内の画像をスマートフォンやタブレットで確認する

ことができる「連携BOXモバイルサービス」に加え、診断用画像データをクラウド上に安全に保管する「データバンクアーカイビングサービス」、医療機器のメンテナンスをインターネットを介して速やかに行う「リモートメンテナンスサービス」など、さまざまなメニューを備えています。

2014年には、クラウド型のポータルサイトにより在宅チーム医療を支援する「在宅メディケアクラウド」を新たにスタートするなど、ICTの進歩と医療現場のニーズを見据えながら、サービスラインアップを拡大しています。



より良い医療環境づくりに貢献する、 コニカミノルタのICTサービス

Case 1 医療連携ネットワークの構築を支援

課題

地域の診療所と中核病院の連携強化

各分野の専門医や先端の医療設備を備える中核病院と、近隣の患者さんに寄り添う診療所が遠く離れている地域においては、容易に連携が取れない状況にあります。

このような地域において、「点在している医師たちが、ネットワーク上で一つの総合病院になればいい」との考えから、中核病院と診療所が連携する体制づくりを進めるなかで、そのためのネットワークインフラをいかに構築するかが課題となっています。



ソリューション

インターネットを介した医療連携を実現

コニカミノルタは、このような地域の病院に対して、「連携BOXサービス」を活用した医療連携ネットワークの構築を提案。遠く離れた医療機関同士で、インターネットを介した医療情報の共有を可能にします。

例えば、急を要する患者さんが診療所に担ぎ込まれた場合、中核病院の専門医と診断用画像を共有して相談することで、中核病院での手術が必要か、診療所の治療でよいのか、判断を下げます。中核病院での手術となった場合でも、あらかじめ情報を共有することで、患者さんが搬送されるまでに、適切な準備を整えることができます。

このほかにも、離れた場所の専門医同士が、同じ画像を見ながら意見交換することも可能になります。さらに、入院中の患者さんの容態が急変した際に、担当医が夜間や出張中などで不在にしている場合、自宅や出先から画像を見て、必要な対応を取ることができます。

このように、さまざまな連携を可能にすることで、医療サービスの質を高め、安心して暮らせる社会づくりに貢献しています。

Case 2 在宅チーム医療を支えるクラウドサービス

課題

多様な医療従事者間のタイムリーな情報共有

近年、日本では高齢化やベッド数不足などを背景に、患者さんの自宅で診療する「在宅医療」へのニーズが高まっています。より良い在宅診療の実現には、各分野の医師や薬剤師、看護師、リハビリ職員、ケアマネジャー、介護士などがチームとなって患者さんや家族を支える「在宅チーム医療」が欠かせません。そこで、専門の異なる多様な医療従事者が、いかにタイムリーかつ詳細に情報を共有するかが、課題となっています。



ソリューション

ポータルサイトを介した緊密な連携を実現

コニカミノルタは、こうした課題に対するソリューションとして、「在宅メディケアクラウド」を提案。在宅医療チームを構成する医療従事者に、患者情報を共有するためのポータルサイトを提供することで、チーム内でのより緊密な連携を可能にしています。

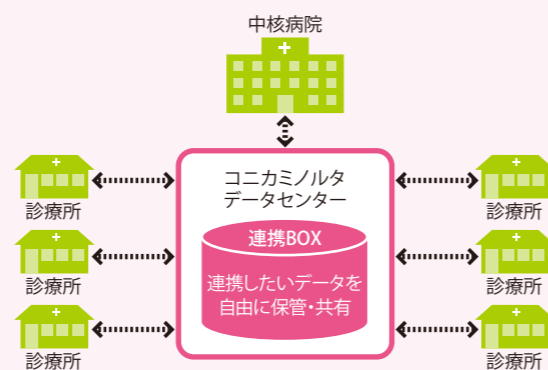
例えば、患者さんの体温や血圧、脈拍などは、医師、看護師、介護士などが訪問するたびに測定されます。それらのバイタルデータを測定したその場で、タブレット端末などを活用して入力すると、それぞれが入力したデータが蓄積・統合され、日々の変動を一つのグラフとして、全員で共有・活用することができます。

また、床ずれなどの状況も、それぞれが撮影した写真を共有することで状態の変化をタイムリーに把握でき、SNS機能で互いにコミュニケーションをとることで適切な対処が可能になります。さらに、薬剤師が全ての処方箋を管理できるので、皮膚科医と歯科医から、それぞれ痛み止めを処方された場合でも、重複して服薬する事態を防止できるなど、さまざまな面で医療サービスの質の向上に貢献します。

インターネットを通じて医療情報を共有する「連携BOXサービス」

コニカミノルタの「連携BOXサービス」は、インターネットデータセンターを介して、離れた医療機関同士での情報共有を可能にするサービスです。万全のセキュリティ対策のもと、電子カルテや診断用画像などのデータを、いつでも、どこでも確認できるため、複数の医師による医療連携を実現します。

専用回線などは必要なく、インターネット接続環境があれば、簡単かつ低コストで導入できるため、多くの診療所の参加が期待でき、さまざまな地域の医療連携ネットワークづくりに貢献します。



在宅医療チーム間での情報共有を可能にする「在宅メディケアクラウド」

コニカミノルタの「在宅メディケアクラウド」では、電子カルテをはじめとした在宅患者の情報を、リアルタイムに共有化できるクラウド型のポータルサイトを提供します。在宅チーム医療に携わる方々が、パソコンや携帯端末からアクセスすることで、一人の患者さんについて、それぞれ個別に入手したデータを集約し、全員が共有して活用できます。これにより、患者さんは自宅にいながらにして、病院内と同等の連携の取れた医療サービスを受けることができます。

